

翼



第6号 令和7年10月1日 発行

■第1回学校アンケートについて

校長 井上 雅子

第1回の学校評価アンケートを7月に実施いたしました。アンケート項目のうち生徒、保護者、教員の結果を比較できるものについてまとめました。ご協力ありがとうございました。（保護者 275 名の回答）

※数字は「そう思う」「どちらかというと思う」を合わせたもの。 令和6年第一回→令和7年第一回)

○生徒は学校に行くのが楽しい 【生徒】89%→91% 【保護者】82%→93%

○学校はわかりやすい授業をすすめるための様々な工夫をしている

【生徒】昨年度から教科ごとの授業アンケートで実施。【保護者】72%→66%

○時間、挨拶、言葉遣いなど集団のルールやマナーを守り規則正しい学校生活を送っている

【生徒】84%→94% 【保護者】90%→87% 【教職員】100%→100% *教職員については、「生徒に挨拶や言葉遣い等のルールやマナーの大切さを伝え、規範意識を高める指導を行っている」という質問です。

○学校でいじめられたり、無視されたりすることなく安心して活動できる

【生徒】96%→95% 【保護者】81%→76% 【教職員】100%→100% *教職員については、「生徒がいじめられたり無視されたりすることなく安心して活動できるように教員間で生徒情報の共有を積極的に行っている」という質問です。

○学校は日頃から生徒からの相談に積極的に応じている 【生徒】96%→98% 【保護者】69%→68%

○お互いが協力して、生徒会活動、委員会活動、学級の班や係活動に前向きに取り組んでいる。

【生徒】97%→98% 【保護者】87%→90% 【教職員】90%→96% *教職員については、「学校は生徒が学年・学級への所属感や自己有用感をもてるように学校行事や生徒会活動、部活動を充実させている」という質問です。

○学校は進路や職業の学習により自分の将来や「夢の実現」に向けた取り組みや指導をしている

【生徒】86%→88% 【保護者】78%→75% 【教職員】96%→98%

○学校は、学校、学年だより、学校 HP などを充実させ学校の取組や生徒の様子を発信している

【生徒】96%→96% 【保護者】93%→93%

○タブレットを家庭学習でも活用している。【生徒】57%→55% 【保護者】54%→44%

○タブレットを利用のきまりを守って使用している。 【生徒】98%→96% 【保護者】79%→83%

ほとんどの項目で、昨年とほぼ同じ数字で、おおむね肯定的な意見をいただいていることは評価できます。「生徒は学校へ行くのが楽しい」では、「そう思う」「どちらかというと思う」を合わせた数字は生徒は昨年とほぼ変わりませんが、保護者の数字がかなり上がりました。しかし「そう思わない」「わからない」の生徒が9%いることについては、生徒の様子の変化や気持ちに寄り添う働きかけが必要です。「学校でいじめられたり、無視されたりすることなく安心して活動できる」という項目では、「そう思う」「どちらかというと思う」を合わせて、生徒については95%で、多くの生徒が「学校はいいがなくて安心して安全な場所である」と感じていることについては大きく評価できます。しかし保護者については、76%と生徒の数字よりかなり低く、本校のいじめ対策に不安をもっていることを受け止め、今後も、全教職員が生徒の様子を見守り、日常の観察を丁寧に行うことと聞き取りによるいじめやトラブルの早期発見、生徒への教育的な支援を全校をあげて行っていかなければなりません。

また一人1台のタブレット端末が配布されて4年目となり、授業で毎日活用しているところです。「タブレットを利用の決まりを守って使用することができる」では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせて、生徒は96%に対し、保護者は83%と昨年よりは上がりましたが、学校及び家庭のルールを徹底していく必要があります。今年度は生徒会を中心に小中で共通して取り組んでいます。また「タブレットを家庭学習でも活用している」では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると、生徒は55%、保護者は44%と昨年と変わらず課題です。

詳しいデータは既に生徒に配布しています。また第2回を12月に実施予定です。よりよい学校改善のためにどうかご協力ください。

■おやじ倶楽部による職業講話

今年もおやじ倶楽部による職業講話を1年生、2年生、IJ学級で行いました。仕事の苦勞ややりがいはもちろんですが、人生の中で仕事の意味、喜びや幸せの気持ちなどを語っていただく中で、中学生の心に響くたくさんの未来への応援のメッセージを盛り込んでくださいました。また本校が東京都人権尊重教育推進校であることで、人権について考える内容もお話しくくださいました。3月には、卒業前の3年生におやじ講話を実施する予定です。

1年A組	さん	グローバル化とキャリア
1年B組	さん	システムエンジニアとして
1年C組	さん	研究職ってどんな仕事？
1年D組	さん	本当にやりたいことを見つけて最高の人生にする
1年E組	さん	日本の医療とコンサルタント
IJ学級	さん	働くって何だろう？世界を平和に導く国際協力という仕事
2年A組	さん	グローバル化とキャリア
2年B組	さん	働くって何だろう？世界を平和に導く国際協力という仕事
2年C組	さん	日本の医療とコンサルタント
2年D組	さん	海外の人と働くということ



■「あん」の作者ドリアン助川氏による人権講話

作家、詩人、歌手であり、現在は明治学院大学国際学部教授のドリアン助川氏に人権講演会をお願いしました。ドリアン助川氏の小説「あん」は、ハンセン病患者の差別と生きる希望といったテーマを深く掘り下げた作品です。講演会では、小説「あん」の映画を中心に、生きる意味についてお話しいただきました。



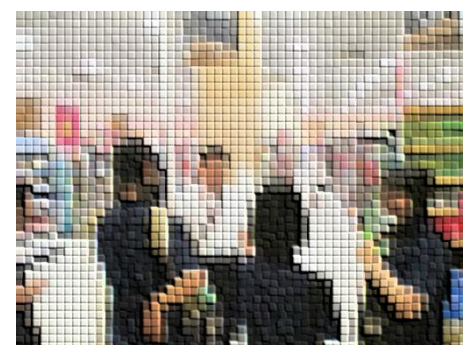
＜3年生の生徒の感想文より＞

- ・人の数だけ見えたり感じたりする世界は異なるため、私自身の感受性を見失わないようにしたり、わからない知らないからと言って他人の世界を批判したりしないようにしたいと思いました。限りある命をどう豊かに色づけていくか考え直していきたい。
- ・受験生で大変なことや辛いことが多い今こそ、自分が生きている時間は限りあるから、その時にできることを今ある力で頑張りたいと思った。
- ・生まれた環境や才能など人間は平等ではなくて私も人と比べて落ちこむことがよくある。しかし全員平等に生きる理由をもって、「あん」の徳江さんのおかれた状況で自分の人生を全うする生き方がとても素敵だと思った。差別がなく助け合える世の中にするために自分のできることを探したい。
- ・一人一人が生きる意味を考えることなく幸せに生きていける世界があったらなんていいんだろうと思った。
- ・自分が存在しているから世界があるという考え方を聞いて、確かに自分たちがいなければ、周りの世界を見ることもできないし感じることもできなかったなと思い、人生の見方が180度変わったような気がしました。そういう意味でも生きるというのは全員に与えられた権利で、ハンセン病などを理由に差別されるべきではないなと改めて思った。
- ・「生きる意味は何か」すごく難しいと思ったけど、例えば星を見るのが好きだから星を見るために生きる！でも間違いではなく、人それぞれの意味があっていいと思う。人生一度きり、せつかく人に生まれてきたのなら人として認識できるものなるべく見て広い世界で生きていきたい。

■職場体験（2年生）とIJ学級職場訪問

今年度も職場体験を2日間行いました。事前にマナー講習、訪問先へのアポイントなどを行い、十分に準備を行って当日の体験をさせていただきました。全部で50箇所ほどの事業所で体験させていただきました。有意義な体験となり、事業所の方には本当に感謝いたします。

IJ学級では、職場を訪れ見学することを通じて、働く事の意義ややりがいを感じることができ、将来を考える機会とするために毎年実施しています。今年度は、外食をすることで必要なルールやマナーについても学びました。旭製菓（西東京市）、イオン東久留米店（東久留米市）、住友重機械工業株式会社（西東京市）、東京アフターケア協会（清瀬市）、三越伊勢丹ソレイユ（新宿区）の5カ所を班ごとに訪問しました。



■初めての校外学習

秋晴れの中、1年生が川越の校外学習に出かけました。初めての班行動でしたがほとんどの班があらかじめ決めていたコースを時間通り、班で協力しあって見学することができました。また1学期から総合的な学習の時間で学習しているSDGsについても課題についての調査研究ができました。何よりも電車の中、駅のホーム、見学場所でのマナーの良さは、とても立派でした。事後学習で、まとめの学習を行います。



■生徒の活躍

- 令和7年度全国中学生人権作文コンテスト 西東京市代表
 - (2-A)「『空気を読むこと』と人権のバランス」
 - (2-B)「アイヌの人々の誇りを守るために」
- ソフトテニス部男子 第69回東京都中学校第11ブロック新人大会
 - 男子団体 準優勝（都大会シードで出場）
 - 男子個人 第二位
 - ペア（都大会出場）
- バスケットボール部男子 西東京市内大会 第三位
- バスケットボール部女子 西東京市内大会 準優勝
- 美術部 働く消防の写生会 ポスターの部優秀賞 (2-A)

